

熊本学園大学
水俣学研究センター
2016年度
第13期 公開講座

9/27 和田 要
熊本学園大学社会福祉学部教授
「益城町の被災状況」

10/4 天野和彦
福島大学うつくしまふくしま
未来支援センター 特任准教授
「地域を創る—いま地域で生きる
ために大切なこと」

10/11 河田恵昭
関西大学社会安全研究センター長
「熊本地震から復興と次の大震災
にどう備えるか」

10/18 花田昌宣
熊本学園大学水俣学研究センター長
「困難を抱える被災者への支援体験—
熊本地震における大学避難所の取り組み」

10/25 東 俊裕
熊本学園大学社会福祉学部教授・
被災地障害者センターくまもと事務局長
「被災した障害者に対する支援と
その取り組みから見えてくるもの」

お申し込みは
水俣学現地研究センター

開館時間 火～金 10:00-16:00

〒867-0065 水俣市浜町2-7-13

TEL/FAX 0966-63-5030

e-mail m-genchi@kumagaku.ac.jp

熊本地震と水俣

—地震への備えを考える—

2016年

9/27～
10/25

毎週火曜日

午後6時半～8時半

水俣市公民館
2階 第1研修室

水俣市浜町2丁目10-26

後援：水俣市

熊本では、2016年4月14日・16日の2回、震度7の揺れを経験しました。震源地の益城町を中心に、死者50名、16万棟余の建物が甚大な被害を受け、避難生活が続き、生活再建のめどが立たない人たちも少なくありません

水俣でも震度5の揺れを経験しました。1960年に建てられた水俣市役所は損傷し、市役所機能の移転を余儀なくされました。建物被害やチッソ旧八幡残渣プール周辺の護岸の破損なども報道されています
今後、水俣で震度6を超える地震が発生する可能性があり、来るべき地震にどう備えるのか、防災計画の再構築は喫緊の課題です

熊本地震発生直後からの避難所設置や運営、しょうがい者支援、避難者としての経験から、今後の地震にどう備えるのか、水俣市の防災計画にどう活かしていけばよいのかを共に考えていきたいと思います

受講はすべて無料です。全講義受講者には修了証を発行します